

小さな親切から学ぶ成長

熊本県 二岡中学校 1年 小湊 李香

「あっ、今、私でトイレットペーパーがなくなりました。新しいのに換えるからちょっと待っててね。」

それは、私が公共のトイレに入ろうとしたときだった。見知らぬお姉さんがトイレから出て言った。人と話すのが苦手な私はとっさに、

「あっ。ありがとうございます。」

とだけ言葉を返した。あまりにも急で、知らない人だったのですごく驚いた。お姉さんは辺りを見回しトイレットペーパーの予備を見つけると、手慣れた様子で交換して、なにごともしなかったかのように出て行った。私は、とても嬉しかった。まさかここまで気を遣ってくれるとは思わなかったからだ。

私は今まで、このお姉さんのように、次にトイレに入る人の気持ちを考えたことがなかった。思い起こしてみれば、トイレに入りトイレットペーパーがなかったとき、私は「なんで紙がないの」と怒ってばかりで、自分が使ってなくなったときはそのままにして出ていっていた。

(別に換えなくても次の人が換えてくれるだろう)。

しだいに私の中で、面倒くさいから「そのまま」が普通になってしまっていた。なんと自分勝手な人間だったのだろう。

お姉さんにとって、次の人のために紙を換えることはごく普通であたりまえのことなのである。でも、親切にされた側はとても嬉しい。見知らぬ人だからこそ、また嬉しい。

私は、ある先生からこんな話を聞いたことがある。「いい医者は、人の痛みがわかる医者だ」と。「その人も自分と同じ苦しい経験をしているからこそ、痛みがわかる。だからこそ今たくさん辛い経験をした方がいい」とその先生は話した。

「親切」というのも、この話と同じなのではないかと思う。自分も同じ経験をしたからこそ困っている人の気持ちがわかり、どう行動すればよいか的確に判断することができる。

私は、次にトイレに入る人の怒る気持ちがわかっていたはずなのに、今までにも行動しなかった。今ではそのときの私を恥ずかしく思う。このことがあってから私は、家でもトイレットペーパーの交換をするようになった。それまではお母さんに散々怒られ言われ続けていたが、知らんぷりをしていた。最近の私の変わりように、「成長したわねえ」とほめられる。

これから私はたくさんの経験をしていく。その中でも辛く苦しい経験から逃げず正面から向き合い、大きく成長したい。そして、困っている人がいたら、すぐに手を差しのべられるような人間になりたい。